

ダイバーシティ経営に関する取組

平成28年4月

経済産業省

- 女性をはじめ多様な人材の能力を最大限発揮させることにより、イノベーション創出等の成果を上げている企業を表彰。ベストプラクティスの発信により、取組の展開を図る。
- 平成24年度から実施し、計174社（大企業93社、中小企業81社）を選定。

ダイバーシティ経営の意義

① 多様な市場ニーズへの対応

② リスク管理能力（ガバナンス）の向上

④ 労働市場における評価の獲得

③ 資本市場における評価の獲得

< 選定事例（働き方改革） >

伊藤忠商事株式会社（H27選定）

- ・働き方、ビジネスの思考、姿勢そのものを変革するため、「朝方勤務」へ転換。20:00以降の勤務は原則禁止、深夜勤務は禁止。早朝勤務には深夜勤務と同様の割増賃金を支給し、朝の軽食無料配布も実施。
- ・月平均時間外勤務時間の10%削減や4%のコスト削減を実現。



SCSK株式会社（H25選定）

- ・長時間労働削減のため、「残業時間削減目標」と「有給休暇取得目標」の達成度合いによって、報奨制度を設定。達成率の高い部署の社員に、ボーナスを増額し、**約4割の残業削減達成**。2年で1.5倍の労働生産性向上。

スマートワーク・チャレンジ20

有給休暇 **20日**取得
(100%消化)

月間平均残業 **20時間**
前年度比 **20%減**
≒1日当たり **20分減**

- 平成24年度より、経済産業省と東京証券取引所が共同で実施。
- 「女性活躍推進」に優れた上場企業を「中長期の成長力」のある優良銘柄として、投資家に紹介することを通じて、各社の取組を加速化していくことが狙い。

〈なでしこ銘柄の概要〉

- ✓ 東証全上場企業約3,500社より、業種毎にベスト・インクラスを選定。
- ✓ 評価のポイント
 - ① 女性活躍推進の取組
 - ・女性のキャリア促進
 - ・仕事と家庭の両立サポート
 - ② 経営における実績
 - ・一定のROE（株主資本利益率）を満たす
- ✓ 選定にあたっては公開情報を元にするので、企業情報の見える化と投資家の情報活用を促進。

〈平成27年度「なでしこ銘柄」選定企業：45社〉

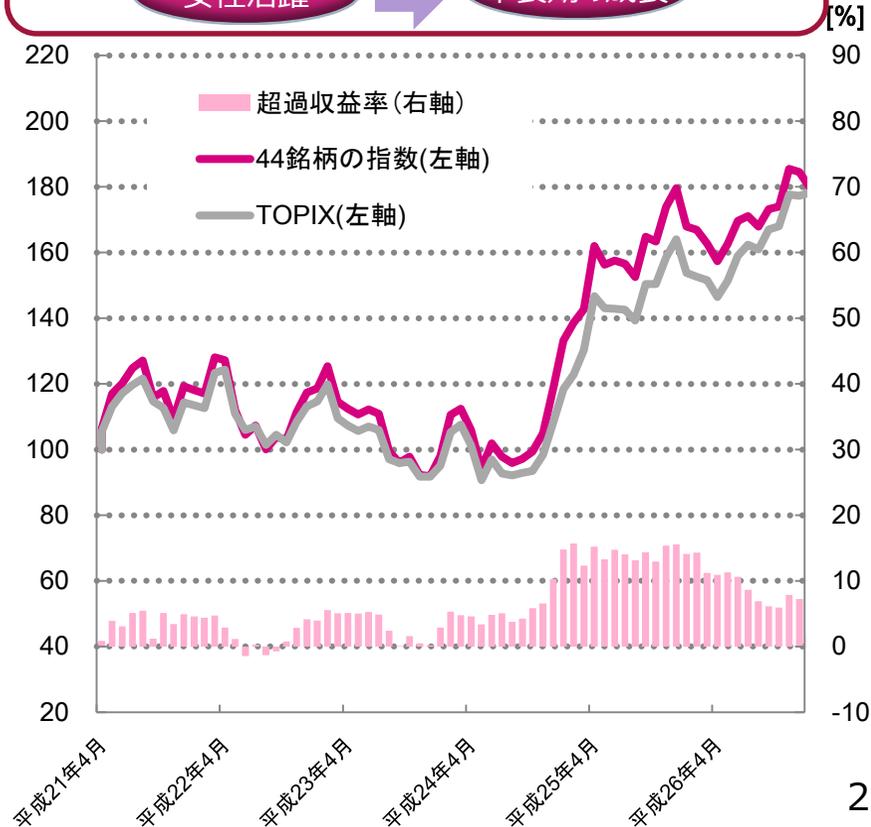
カルビー、アサヒグループホールディングス、日本たばこ産業、石油資源開発、住友林業、大和ハウス工業、積水ハウス、ワコールホールディングス、JSR、メック、アステラス製薬、中外製薬、TOTO、神戸製鋼所、DOWAホールディングス、小松製作所、ダイキン工業、IHI、日立製作所、富士電機、富士通、ブリヂストン、日産自動車、テルモ、トップラン・フォームズ、中部電力、大阪ガス、東京急行電鉄、日本航空、ANAホールディングス、KDDI、SCSK、伊藤忠商事、三井物産、ローソン、ユナイテッドアローズ、りそなホールディングス、みずほフィナンシャルグループ、大和証券グループ本社、リコーリース、東京海上ホールディングス、ヒューリック、スタジオアリス、JPホールディングス、トレンドーズ

〈女性活躍推進に係る取組と株価の相関〉

女性活躍に関するスコアが高い企業（合計44銘柄）の指数は、TOPIXのパフォーマンスを上回っている。

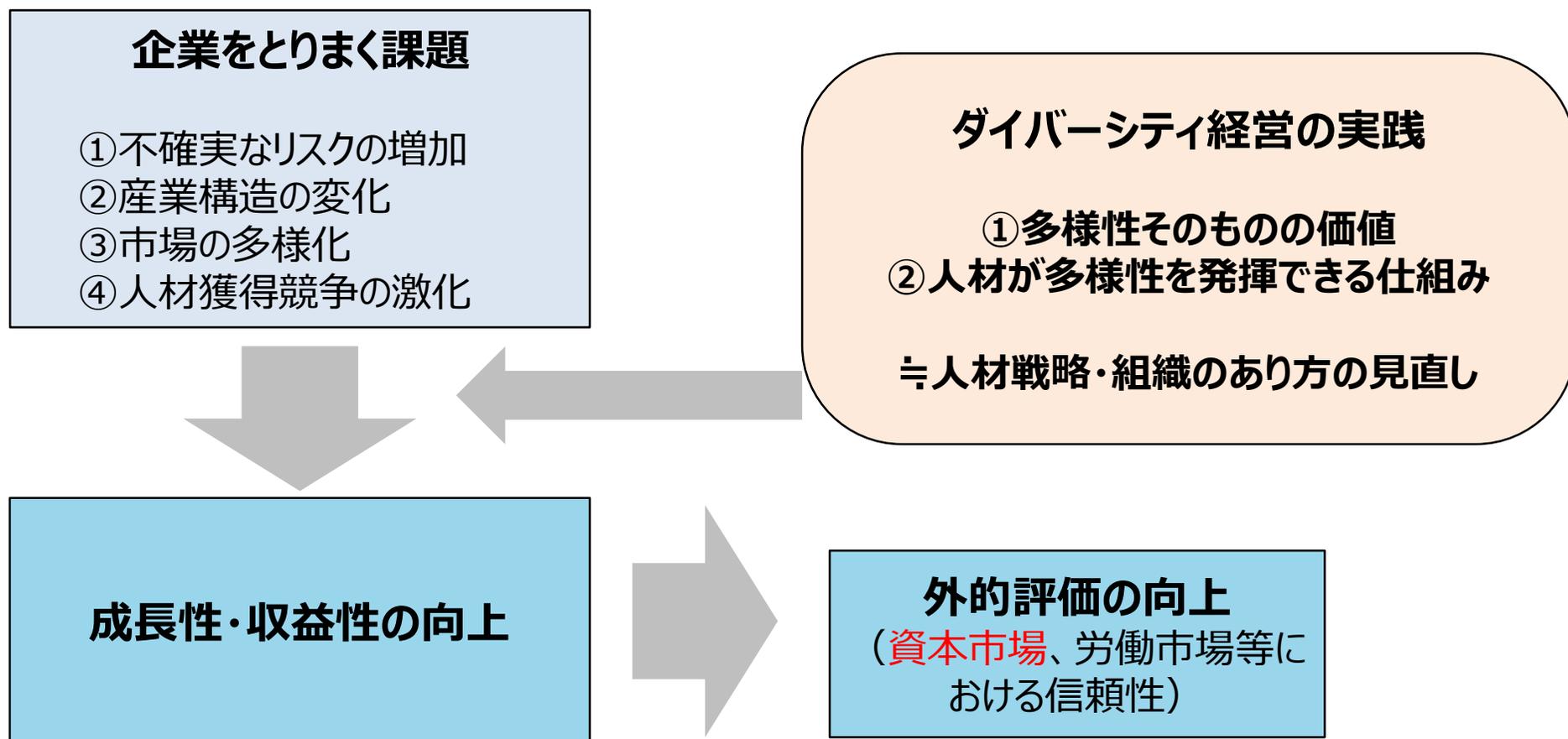
女性活躍

中長期の成長



ダイバーシティ経営の必要性について

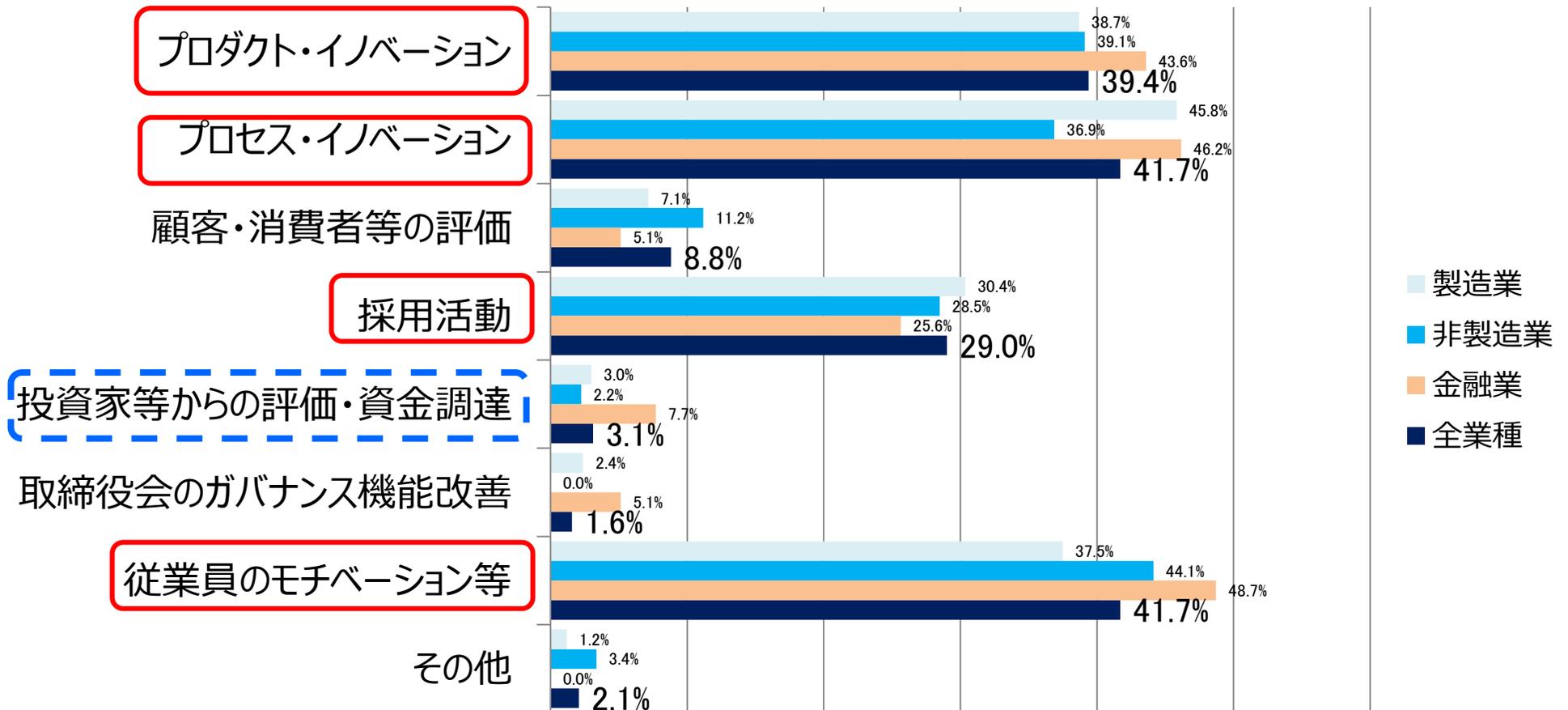
- 企業にとってダイバーシティ経営を実践する意義は、企業をとりまく外部環境の変化に対応するために、人材戦略・組織のあり方を見直し、成長性・収益性を向上させること。
- 成長性・収益性の向上に繋がるダイバーシティ経営のあり方を明確にし、企業・投資家双方への訴求力を高める方策を具体化するため、新たな検討の場を立ち上げる方針。



(参考) 女性活躍の企業競争力への影響

- 企業側の認識では、女性活躍は従業員のモチベーションや、プロセス・プロダクトのイノベーション、採用活動へ大きな影響がある。投資家からの評価・資金調達における影響は大きくはないが、昨年と比較して伸びている。

「女性活躍推進は貴社の競争力に対し、どのような影響を与えますか。」（二つまで回答可）という設問への回答結果



(出所) 平成27年度「なでしこ銘柄レポート」(P50)

(参考) 持続的な価値創造に向けた投資のあり方の検討

① 持続的な価値創造に向けた投資のあり方

- ✓ 持続的な企業価値を生み出すための企業経営・投資のあり方やそれを評価する方法について、狭義のESG（環境、社会、ガバナンス）だけでなく、人的資本、知的資本、製造資本（例えば、IIRC（国際統合報告フレームワーク）における6つの資本の考え方等）等も視野に入れ総合的に検討。

② 企業と投資家の意識や行動の変化の促進

- ✓ 上記検討内容について国内外に発信し、広く企業と投資家の意識や行動の変化を後押し。

論点

1

企業（経営者等）が、持続的な価値創造に向けて、様々な「資本」を有効に活用し、未来に向けた投資判断を行うための方策は何か。

- ✓ 長期的な企業価値を向上させるための投資判断とは（企業の長期投資のあり方）
- ✓ 企業がイノベーションを生みだし持続的な価値創造を行うためには、様々な「資本」をどのように効率的に配分・組み合わせ・組み替えて使うべきか（資本の有効活用）

2

投資家が、長期的な企業価値を判断する視点や評価軸は何か。そのために必要となる情報や対話のあり方はどのようなものか。

- ✓ 企業の長期的価値を的確に評価するために考慮すべき要素は何か（ESGや人的資本・知的資本ほか非財務要素 等）
- ✓ それらの考慮要素について、企業・投資家は、どのような方法で判断・評価に必要な情報を発信・入手しうるか（格付け機関や情報ベンダーとの関係を含む）